

## 河曲保育所改築など追加

### 6月補正予算、国の経済対策交付金6億円受けて

市議会6月定例会で、一般会計6億5千万円、下水道特別会計6億5千万円の補正予算が議決されました。この補正財源は、麻生内閣の大型「景気対策」15兆円のうち鈴鹿市に配分されたものです。国レベルでは、選挙目当てのばらまき予算で、ほとんどが借金、しかもあとで増税という無責任なものです。国の交付金を受けての市の補正予算は、住民のための施策、当初予算に入れられず後回しにされた事業の復活というものがほとんどで、賛成しました。

河曲保育所改築事業 4億円 老朽化した園舎を全面的に建て替え、2階建ての広い園舎にし、現園舎跡を園庭にします。一時保育スペースや「子育て支援センター」も併設します。

白子公民館増築工事 4600万円 大きな地区で利用者も多い白子公民館の東側に、会議室などを増築します。評判の悪いトイレも増やして「男女別」にします。

臨時職員の緊急雇用事業 7068万円 「派遣切り」などで仕事を失った人を90人、6ヶ月以内で市で雇用して、公園や学校の整備などの仕事をしてもらいます。

平田町駅バリアフリー化 141万円 改札からホームまでの工事850万円を国、近鉄が3分の1ずつ、県、市が6分の1ずつ負担します。

白子駅にエレベーター 2183万円 橋上駅へのエレベーター3台を設置します。全体事業費2億9300万円、市は6分の1の4883万円負担します。

平田野中体育館の雨漏り修繕 1590万円 老朽化した体育館を、移転新築までの間もたせるための工事です。

全小学校に「電子黒板」配置 2477万円 50インチの大画面にパソコンをつないで授業に活かします。当面30校に各1台ずつ購入します。

# 生活保護不正事件、「けじめ」はいつつくのか？

6月10日の本会議一般質問で、私は昨年来の「生活保護不正支給」事件について、事件の全体像を早くまとめて市民に報告することを求めました。

去る3月末に外部委員による「生活保護調査委員会」が報告書を出し、事件の背景や原因を明らかにし、再発防止策を提言しています。これを受けて、市生活支援課の仕事の進め方はすでに改善されて、職員も増員され窓口での対応も良くなっています。

しかし、委員会の提言のもう一つの柱である「不正受給にけじめをつける」については、市としてのまとまった報告はまだありません。私は、事件の全体像、不正とされる金額、その返還方法、事件の責任問題などを、いつまでに市民に報告できるのかについて質問しました。

## 厚生労働省や県との協議によって決定される

保健福祉部長は、5月下旬にやっと検察庁から書類が戻ってきたので、全体の内容を精査して国と県に報告、その後に国の方針が示され返還額などが明らかになる、との見通しを示しました。私は、いま生活保護の申請が激増しているなかで、過去の問題を検証する態勢は現場にないので、特別のチームを置いて、早く報告をまとめることが大切だと提言しました。

## 「市役所全体の組織風土」改革はどうか

また私は、委員会報告書が「市役所という組織全体の組織風土改革が必要」と指摘していることについて、どう取り組んでいるのか聞きました。総務部長は、公務員としての倫理観、使命感、チームとしての一体感、コミュニケーション、困難な事案には組織として対応、などを重視していくと答えました。私は「委員会から、鈴鹿市役所の風土が他の町とは違うと指摘されたことは重大で、一般的に意識改革というだけでは済まない。地方自治法も大事だが、その上の憲法で規定されている国民の権利をしっかりと守るのが公務員だと徹底すること。また、市役所に不当要求を言ってくる住民を排除することよりも、困っている市民の相談に応じ、生活を支える仕事こそ大切だ」という姿勢をもつべきだ」と注文をつけました。

# 市役所の官製ワーキングプアなくせ

不況だからと、公務員の夏の期末手当（ボーナス）が1割カットされ、年間支給月数で4.3ヶ月にされました。しかし、市で働く嘱託職員はもともと支給月数1.85ヶ月と、正規職員の半分ほどです。しかも本給が15~16万円前後と低いままで、年間所得では大きな格差になります。

保育士、司書、公民館主事、保健師、学芸員など、専門的で重要な仕事につく嘱託職員240人、臨時職員380人は、正規職員と同等の仕事をしています。違うのは、「何年働いても給料が上がらず低いまま」という点です。

## 「定型的・補助的・一時的」ではない非正規職員

市の「定員適正化計画」では、「定型的な業務、補助業務、一時的な業務については、嘱託職員、臨時職員の活用により、柔軟で効率的な人員配置を進めます」としています。しかし実際の現場では、正職員と同じ仕事につき責任も持って働いています。まさに非正規職員は「正規の代替」として、半分以下の安い給料で使われているのです。

私は「この人たちを正職員化すべきである。直ちにできないのなら、せめて待遇を引き上げるべきである」と是正を求めました。

---

## 「一日派遣村」相談会を開きました

6月4日、神戸コミュニティセンターで「一日派遣村」と銘打って、「何でも相談会」を、民主団体の実行委員会で行ないました。ハローワーク前でビラを配っただけでしたが、開場前から相談者がやってきて、合計12人が来ました。そのうち、派遣切りで寮を追い出されホームレス状態の人が3人もあり、さっそく泊まる所の確保、病院での診察、雇用保険や生活保護の申請などの対応に追われました。

内容を聞くと、ささいな言いがかりで解雇して「自己都合」と離職票に書く、高い「寮費」「光熱費」などを上乘せして天引き、暮らせないような手取り額にされる、など人間扱いしないひどい雇い方、首の切り方が横行しています。私たちの予想以上に「政治災害」の被害は、広く深刻です。

いま彼らは労働組合に入って、堂々と会社と交渉を始めています。「派遣村」は、7月8日にも第2回「何でも相談会」を行なう予定です。

## ずいそう



# のんびり楽しい山めぐり

梅雨の晴れ間をぬって、鈴鹿年金者組合の山歩会の行事に久しぶりに参加させてもらった。行先は北八ヶ岳。といっても以前に2度ほど登った南八ヶ岳の峰のような険しい山ではなく、ロープウェイで上がってそれから高度差200メートルで頂上に着くという、鈴鹿の山より楽な山歩きである。

総勢16人のメンバーは初心者が多く、その名も「どんがめグループ」。リーダーがしょっちゅう「口を動かさずに足を動かしましょう」と言うくらい、にぎやかな集団であった。蓼科温泉の上にあるピラタスロープウェイに乗ると、7分ほどで高度2200メートルの山頂駅に着く。じっとしていると寒く、歩いていると温まるくらいで、汗もほとんどかかない快適さである。急斜面にかかり、30分ほどで縞枯山(しまがれやま)頂上となり、展望台からは180度のパノラマが広がる。



縞枯山展望台より茶臼山をのぞむ

さらに1時間ほど下って登ると、次の山は茶臼山(ちやうすやま)。ここも展望は抜群である。縞枯山の方を見ると、樹木が縞模様に枯れたり生えたりを繰り返す、世にも不思議な「縞枯れ現象」が見える。「私らは皆枯れだね」などと冗談もでる。

山歩会でも健脚組のメンバーは、今年は北岳に登る計画という。富士山に次ぐ高峰、私でも十分なトレーニングなしでは危ないかなと思うが、70歳過ぎててもどんどん高い山に行ける体力気力はうらやましい限りである。

しかし一方で、「どんがめ」で生まれて初めて山の頂上に立った方たちは、これで大感激、大満足である。「年金組合に入ったおかげで、こんな素晴らしい体験ができた」「次はどこに連れて行ってくれるの」人間いくつになっても、新しいことに挑戦する、新しいことを知る、新しい仲間ができる、これが若さを失わない、ボケないための大事な条件である。